

横浜国立大学大学院における環境講座（2016年度後期）

地球環境委員会は環境分野における社会貢献活動の一環として、2002年度から大学での環境講座に講師を派遣しており、将来を担う若い世代に事業活動を通じた環境問題への取り組みの重要性を伝えるとともに、商社の環境管理体制、環境関連ビジネスなどを具体例を用いて分かりやすく紹介している。

2016年度後期は10月20日に横浜国立大学大学院環境情報研究院において岩谷産業㈱と三菱商事㈱の講師により、商社の環境関連事業とそれを支える経営理念について詳細なプレゼンテーションが行われた。参加者からは有意義な講座だった、自分の研究に役立てられるなどの感想が寄せられた。

当日はまず、岩谷産業株式会社水素エネルギー部シニアマネージャーの梶原昌高氏より「水素社会実現に向けたイワタニの取り組み」と題して同社の水素関連事業への取り組み状況が説明された。最初に、水素そのものの特徴と水素市場の現状について、基本的な情報が分かりやすく説明され、次に、エネルギーとして水素をどのように活用できるかについて、その可能性と水素・燃料電池戦略の具体的なロードマップ、商用水素ステーションの整備状況などが示された。以上の説明により一般的な基礎知識を講座参加者に持ってもらう上で、岩谷産業の取り組み状況と今後

の課題が数多くの現場の写真を使って具体的な事例に基づいて説明された。最後に、水素関連事業の今後について、社会全体の視点からさまざまな産業分野での開発・活用可能性について詳しく述べられた。水素という物質の持つ大きな可能性について大学院での研究者は深い理解を得ることができた。

続いて、三菱商事株式会社サステナビリティ推進部部長代行の鶴見大輔氏より「三菱商事の持続可能性－サステナビリティ（CSR）に関する取り組み」と題して同社の経営理念を含めた幅広いCSR活動状況が説明された。まず、CSRは事業と離れた社会奉仕のみならず、企業経営や事業と一体化して「経済価値」「社会価値」「環境価値」を社会に提供していくものであるという同社の考え方が紹介された。次に、気候変動やサプライチェーンに対する取り組みが紹介され、さらに「三菱商事復興支援財団」による東日本復興支援活動や、福島ワイナリープロジェクトなど事業を通じた社会貢献活動などが説明された。最後に、欧米のNGOの事例や同社のグローバルに実施している社会貢献活動の状況が示された。参加者の中には10人程度の海外からの留学生がいたため、同社のCSR活動が国境を超えて展開されている商社らしさあふれる取り組みであることがよく理解され、共感を得られた。



岩谷産業 梶原氏の講演風景



三菱商事 鶴見氏の講演風景